

令和2年度 第1回図書館協議会

- 1 日時 令和2年6月25日(木)13:30~15:20
- 2 場所 飯田市立中央図書館2階研修室
- 3 出席者(委員) 今村委員、中村委員、福沢委員、林委員、矢澤委員、唐木委員、長沼委員、小坂委員、
河西委員、
(事務局) 瀧本館長、矢澤情報サービス係長、関口鼎図書館長、宮下上郷図書館長、
小森ビジネス支援係長
- 4 辞令交付
- 5 館長挨拶
- 6 委員・職員自己紹介
- 7 会長挨拶
- 8 会議事項
 - (1) 第3次飯田市立図書館サービス計画の振り返り
 - (2) その他
- 9 事務局からの事務連絡
 - ・飯田市コロナウィルス感染防止対策について
 - ・今年度の図書館協議会の開催について

8 会議内容

(1) 第3次飯田市立図書館サービス計画の振り返りについて

事務局 (『令和2年度図書館概要』『第3次飯田市立図書館サービス計画の振り返り』により説明)

会長 今、事務局の方からサービス計画の振り返りについての説明があったが、これについてご意見、ご質問等があれば出していただきたい。

委員A 分館のことについて、開館日が少ないということが一つのネックになっているということで、これからこのことについて見直しをしていくという予定はあるか。今は水曜と土曜が主であるが。

事務局 水曜と土曜のところと、日曜日も開館しているところがあり、伊賀良についてはもう少し開館の日が多い。伊賀良を整備した時に、当時の構想として、伊賀良を飯田市西部地域の拠点図書館として西部地域の読書推進を担う館とすることを計画した経過がある。その後検討していく中で、各地区の読書推進は各地区で力を入れていくという方針を取っている。ほかの分館の開館日が増やせるかどうかというのは、職員や費用の問題もありなかなか難しいところである。現時点では今の開館日、開館時間で次のサービス計画の期間を行っていく予定で

あるが、それについてもご意見があれば伺いたい。

委員B 今の質問に関連して、曜日によって借りに来る人達の人数の把握はしているか。図書館でも分館でも、だんだん利用者が少なくなっているという現状があるが、それが開くことによって増えるのか。意外とそういうことじゃないのかも。なかなか働いていると普通に図書館を利用することができなくて、私自身も勤めているときはほとんど利用しなかったが、今自由になってすごく図書館利用できるようになったので。曜日が分かればカレンダーを見ながら、あ、今日は開いているなということで利用している。利用日が多い曜日とかあるか。

事務局 分館は小さい図書館で、地区の方が来るということで、利用統計もコンピューターが入っていないので皆さん手で計算してくれている状態。どんな時間帯にどんな利用があるというのは、数として統計を出しているわけではないが、分館係員からの聞き取りにより把握できているところはある。分館は歩いて来られるところということで子どもさんと高齢者の方の利用が多いということもある。水曜の午後はどこも開けているというのは、学校の日程に合わせているところがある。地区によって、学校の帰りに寄ってもいいという学校の取り決めのあるところだと、学校が終わった15時半から16時半くらいの時間にたくさんの子どもが来る。それをわかっている高齢者の方たちは13時から15時くらいの間に来るとか、そういった動向は分館それぞれには把握できている。土曜日以前は午後だけ開けていたところが、学校が週休二日になった経過をふまえて、10時から開けるようにしてきた。家族連れがどんな時間帯に来るのかなどの分館ごとの特色は、把握はできている。中央図書館では18時までだったところを木曜日を20時までと伸ばし、祝日の開館も増やしてきた。ただ、利用全体としては、開館時間を拡大したとか祝日開館を行うようになったことで利用が増えるというより、いつも使っていた方がより便利に使えるようになったということがある。開館時間や開館日変更によって今まで使っていないかたが来られるようになるかどうか等の検討も含め、開館時間については検討したいと思っている。

会長 その他いかがか。

事務局 分館を飯田市の図書館では大事にしているというのは、地域が広くてこちらまで借りに来られないというのも大きい。分館係員も自分が住んでいることで地域の事を良く知っていたり、地区の図書館ということで、例えば地区の保育園や学校へ1クラスごとに団体貸出したり、保育園でまとまって借りにきたりとか、そういうことで、お家の人が連れてきてくれなくても、子どもが本に出会う場所がある。それはもし分館がなかったとしたら、中央図書館がもっと大きくて立派であっても、とてもサービスしきれないところである。また乳幼児学級に合わせてその時間だけ開けるなど、地区の状況に合わせて開館をしたり、本を運んだりしているところもある。子どもだけではなく、地区の高齢者の施設に紙芝居をしに行ったり団体貸出したりということもしている。個人の利用者は人口割にしても少しずつ下がってきてい

る一方で、団体貸出は増えていて、来られない方のところにも一生懸命本を届けているというそういう活動は、分館があるからこそだと考えている。

委員C サービス計画について、第1次から第3次までの計画を5年スパンで見直すようにしたことによって、それまではだいたい毎年見直しでやってきたことが、5年スパンにすることによって、事業的にはこういうメリットができたとか、その点はいかがか。

事務局 たとえば公民館等の場合は1年ごとに毎年見直しでやっていて、そういうやり方もあると思う。1年ごとにやってもその都度その都度の課題というのを取り上げてやっていけば、ということもある。もともとなぜこのサービス計画を作るようになったかという、図書館法の中で、運営に関する評価を行いその評価に基づいて運営の改善を図るよう努めるという項目が追加されたことがきっかけであった。図書館サービスで何を目指していくのかということがまずあり、5年後の姿としてどういう姿を目指していくのか、5年間という区切りで見ることで、これまでの5年間の課題は何だろう、ではこれから具体的に何に取り組んでいくべきであるかと進めてくることができたかと思う。

そうやって振り返ってみると、やはり最初の5年と次の5年では課題が違ってきていて、第3次の今の4年だとまた違う。今のサービス計画は過去2回のサービス計画を振り返って、あれもしたいこれもしたい、これもしなくちゃ、というような思いで作ってしまったところがあり、重点は何か絞れなかったことで取組も不十分になってしまったのではないかという反省があるので、そこは次に生かしたいと思っている。4年先にはこうなりたい、ということを考える、という点では重要ではないかと思う。

前回のサービス計画策定の際に、図書館を使っていない方にアンケートを取った中で、忙しいから行けない、図書館に行く時間がないという方が一番多かった。夜間開いてれば行くとかではなくて、生活の中で行く時間がない、ということがあった。もう一つ、これはアンケートではないが、図書館を繰り返し使ってくださっている方は多いが、使っていない方が大勢いらっしゃる。その2点を大きな課題として取り上げた。

統計は貸出利用の方のみなので、実際には本を借りなくても図書館を使っている方はもう少し多いということはあるものの、利用してくれる人を増やそうと新たな取組を行った。その取組みには反省もある。知らない方には知っていただきたいが、以前から飯田市の図書館の姿勢としては、来てくださった方にとにかく満足して帰っていただくことが次の利用につながるというふうに来てきた。この4年間は新しい方に来ていただくことを頑張ってみよう、と取り組んだが、数字的には減少という結果となっている。良いお知恵があればぜひ拝借したいところ。また、新たな来館者を増やすことを目指すというより、講座もそのひとつであると思うが、市民の皆さんが図書館のことを一緒にやりたい、と思ってくれるようなことに力を入れていく方が良いのではないかと、職員の反省として出ている現状である。

委員D Facebook、図書館ネットワークのアクセスの利用状況はどんな状況か。Facebookの発信の内容と、ネットワークの、ただ図書館の貸し借りだけの情報だけじゃなくて、他のネットワ

ークの情報の発信のしかたも考えてみる必要もあるのではないかと思います。

事務局 図書館概要の19ページをごらんいただきたい。こちらの下半分に、まずホームページによる情報発信ということで項目があがっている。一番下の表でFacebookのアクセス数が乗せてある。

委員D 利用に結びついている部分とか、その辺は

事務局 なかなか新しい方には結びつかないところもあるが、むしろ図書館に親しみをもってもらうということを目指していて、ちょっとした小さな話題、利用者からこんな反応がありましたとか、グリーンカーテンのゴーヤがなりましたとか、そのような図書館に親しみをもってもらうということを目指している。あとはちょっとした本の紹介や新刊案内も毎週出していて、そこで見た本が利用されることはあるが、新規の利用者につながるかは難しい。発信数は載せてないが、平均で週に5回くらいは発信している。

委員D 新刊の本棚の紹介のページ。あれをもう少し、一つの棚自体が拡大した時に書名がはっきりわかりやすいようにならないか。

事務局 本の表紙を一つずつ乗せるということに対しては、使用権を出版社から許可をいただかなければならないということがある。それとは別に職員が本の紹介ページというのがあるが、そちらは全部出版社に許可をいただいているので本の表紙を全部載せられるが、新刊案内はこんな感じで本が入りましたよ、という雰囲気で見えていただいて、ぜひ図書館の方に足をお運びいただきたい、というものである。

事務局 あれは、大きくしても読めないか。

委員D 拡大してもちょっと。撮影の仕方も、それを想定してやってもらいたい。

事務局 ただ、あまりはっきりしないように、と扱っている。Facebookとかインターネットを見る方が新刊の情報が早く伝わってしまう。図書館に来ていただいて新刊の棚を見ていただく方にも、来館した方も大事にしたい、というところもあるので、あのくらいでバランスをとったところである。

委員D そしたら、市の広報誌にもそういう定期的なコラムを、図書館のものを作ってもらって、紙媒体と両方で発信するようしてもらえればどうか。広報誌は市民のほとんどの手に渡ると思う。そんなように工夫してもらえれば、と感じている。

事務局 「広報いいだ」の裏表紙に2～3か月に一度くらいずつ半ページくらいだが載せている。そ

れで昨年度、声の輪さんがつくってくれている録音図書が新しい利用者につながったということもあったので、そこはもっと活用していきたい。

また、ホームページの中に、今週入った新刊が一覧になって見られるページがあるので、Facebookの方は雰囲気だけ載せて、実際の書名やどんな本が入ったかというのは、そちらの一覧の方を見ていただきたい。新刊の一覧とか、予約のベスト30などを発信をしている。

会長 他にご質問ありますか。ご意見でも結構です。

委員E 中学校です。利用者を増やすという点からいって、特に若者、小学校中学校のころの大事さを感じる。どうすれば、来る人の数も含めて増えるのかなあと。やはり本を読むことの喜びや楽しさを感じるということのが原点だということを強く思う。物理的な理由は当然あるとしても、そこを育てるのが小、中学校の大事なところではないか。それが先々へ行ってつながっていくのかなあと。その意味では大変責任も感じている。

本校は朝読書をやってきた。過去形になっているのは、今コロナの関係で、給食の時間を確保しなければならない。衛生面などで時間がかかる。ではどこをカットしようかというときに、申し訳ないのだが朝読書をカットした。この状況が変わってかないと、というところはあるが、なんとか早く朝読書をやりたいということは願っている。

現状のところと、情報発信やネットワークという話も出ているところでお聞きしたいのが、学校にも学校図書館があるが、それらもネットワークに入っつながっているのか。例えば問い合わせればどこにあるよ、というような形で、お互いに情報を共有することができるというようになっているのか。

事務局 市の図書館の蔵書をインターネットで見えることはできるが、残念ながら学校図書館にはシステムが入っていないので、お互いの蔵書を、どこにどのようながあるかというところまで共有できていない。そういうことをやっている自治体もちろんあるが、飯田市の場合はまだそういう形になっていない。

委員E 分館もいろいろ手作業でやられているということをお聞きして、学校もそうだなあと感じていたので。学校の方も要望を出しているが、ネットワークでつながるというハードの面でいえばそういうところもやっていかないと、つながりという面ではきびしいなと思う。うちにはないけどこの図書館に行けばあるよ、とか、そういうこともお互いにできると、子どもたちも本を読みたいということにつながるのかな、ということを感じている。

事務局 学校の中から、そういうご意見もいただければ。

子どもの読書について、市立図書館としてももっと学校図書館と一緒にやっていこうという活動を始めたところであり、先に先生がおっしゃった本の楽しさ、読む喜びを知るという点でも、やはり幼児、小学生、中学生と継続して読書ができるようにするためには、保育所や学校と一緒にやっていくのが一番。読み聞かせで読んでもらって読む楽しさとか喜び

というのを知ることが、自分で読めるようにつながる。そのためには学校と一緒にやらなくては、ということで、計画的にやっ払いこうという話をして取り組み始めたところなので、それについては次期の計画でも一生懸命やっ払いこうと思っている。

委員E こちら声を出していくので。

委員F 小学校です。図書館でこういうイベントがありますよとか、クリスマス会とか読み聞かせの会がありますよとか、そういうPRについては、先ほど広報いいだのところにあるという話だったんですけど、そのチラシは回覧板でいってるのか。学校の方は配るチラシはいただいているか。学校から配ると割と親は見たりする。ああ、こういうのあるんだって。私、自分の子どもが小学生だった時には、地元の分館からのお便りというかチラシがきて、ああ、こういうのがあるんだと見て、子どもが行ったりしたことがそういえばあったなあ。広報いいだもいいが、学校から配られるものって、親としては行こうかなあと、そういう気持ちになるかもしれないなあと思う。学校で配るものって、市から、市でやっているものだから配れるので、いろんな団体さんとかからいただいて全部が全部配れるかというところではないが、図書館のものはお渡しできるので、中央図書館だったら学校にいただけるといいのかなあと思う。

それから開館時間のこと先ほど話があったが、木曜日夜8時まで開館しているというのが、そういえば私担任をしている頃にはありがたかったなあということもあった。なかなか会議だなんだかんで6時なんてすぐになってしまってもうやってないという、そういうのがあるので、週に1回でもそうやって開館していただいているのは非常にありがたかった。やはり学校図書館だけではそろわないものとか、クラス分ちょっと何か揃えたいとか、そういうときに図書館でそろえることができるので、ほんとありがたいなあと思う。私も初めてこういうところにきて、統計とって、目標もって取り組んでいっしやることを思うと、今自分も図書館のことってあんまりできてないんですけど、気にかけていかなければということも思った。除籍する作業がなかなか進まないという話があったと思うが、除籍作業って大変だと思うし、その除籍本って全部捨てるのか。学校に回してもらえものがあるような話があったような。その除籍本はどのように処理をしていくのか。いらないからどうぞと家庭にあげられるものなのか。学校で除籍するものも簡単に配れない中で、除籍本はその辺どういう仕組みになっているのかわからないので教えていただきたい。

事務局 図書館の除籍については、除籍基準にそって、取っておくべきものは取っておいて、古くなった情報だとか、使われなくなったものについては除籍をしていく。その除籍で、児童書については、読み物などは内容が古くなったということとは関係ないと思いますので、学校図書館でもし必要なものがあればもらっていただければということで、今月、児童図書を市の学校や保育園等の施設に、もしいる方がいればもって行っていただくというようなお声がけをさせていただいている。それから、一般、大人の書籍については、小説のようなものについては各図書館でご自由にお持ちくださいということでやっているが、郷土資料だとか全集と

か貴重資料については、今日ちょうどチラシをお配りしたが、特別還元図書市ということで、期間を決めてほしい方にお持ちいただくということで、有効活用していただけるような形をさせていただいている。

事務局 児童は、明日の3時から行う。学校の図書館の先生にも通知が行っているかと思うが、もしよかったらぜひお越しいただきたい。

事務局 ご家庭にある本で、だれか使ってくれる方いないか、という話もあるし、こんな素晴らしい本あるけど図書館でもらってくれないか、ということもよくあるが、図書館も限られた空間であるので、所蔵のあるものは残念ながらお断りをしたり、所蔵がなくても、今後の利用とか、収納スペースのことも考えて、お断りをさせていただくことが多い。しかしやはりそういうものをなんとかうまく使ってもらうところはないだろうか、というお声はいただくことがあって、今現在図書館がそれを、お互いに交換し合うものとかという事業をやるというのはすぐにできない状況ではあるが、各地ではひと箱古本市とか交換市とかやったりしているところもある。この地域は特にまた本を買ってきた皆さんも多いので、現在は図書館が率先して取り組むという状況にないが、市民の皆さんから、自分たちがやるから仲間を作ってやろう、という活動が生まれたら、ぜひ応援させていただきたい。

事務局 委員の方から、イベントのお便り等を学校で、ということでお話をいただいて、本当にありがたいお話だと思っている。飯田市の16の分館は基本的には各小学校区に配置されているので、たとえば夏にお楽しみ会をしますとか、クリスマス会をしますというようなイベントのお知らせは、学校にお便り等を出させていただいていると思う。浜井場小学校さんだと、東野分館が校区の中にあるかと思うので、またそちらからもお便りを出させていただくことがあるかと思っている。橋北と橋南については中央図書館があるということもあって分館は設置されていないので、分館から図書館のお便りが行く、ということはないが、浜井場小学校さんだと川を挟んで上郷がすぐ隣なので、上郷図書館のイベントのお便りも配布をお願いしている。例年だと6月に科学のお楽しみ会というのを行っていたので、本来だったら学校で世帯数の配布をお願いしている時期だったが、今回はコロナの関係でそういう人を集めるイベントというのが、図書館の方でも8月ぐらいまではなかなかやりにくいということで、実施ができていないという状況だが、またそういったものができるようになったら、学校へはお便りの配布はぜひこちらからお願いをさせていただきたいと思っているので、ご承知いただきたい。

委員G コロナで幼稚園とか小学校が休みになって家で子供と過ごす時間が長かったが、開け続けていただいてありがとうございます。きっとその判断も勇気のいるものだったと思いながら、皆さんが返ってきた本を一生懸命消毒してたりとかビニールシート設置したりとか、滞在は30分までとか、涙ぐましい努力とか、そういうことがすごく伝わってきた。私も開けていただいてすごく助かった。子どもたちが、本みんな読んじゃったんだけど…な感じな時

があったので、貸出だけでもしていただいて、そして感染防止対策もしっかり講じていただいて、私は安心して使うことができたし、生活もぎすぎすがちな時期だったと思うけど、より豊かに過ごすことができて、充実した休みになったと思っている。本当にありがとうございました。

今回こういう集まりで、統計もしっかり出していただいて、私も2年目だが本当に図書館の皆さんが情熱をもって運営されているんだなあというのを毎回会議に出るたびに感じている。働き方改革が叫ばれる中でもやり続けていて、すごいなと思っていて、大変な状況にあるのを承知で伺いたいことがあるが、やはり月曜日は司書の皆さんにとっては長年お休みの日という認識がある感じなのか。開けることは難しいのかなと。お友達で美容師さんをされている人とか、飲食店の方で月曜日が休みという方も結構いて、休みの日に行きたいとは思うけどなかなか、やはり他の曜日だと難しいんだけど月曜日開いているところってどこかないのかな、みたいな話が聞こえてきたりする。難しいとは思うけど、どこか一館限られた時間でも開いていたら便利になるという方もいらっしゃるのかな、ということは、やはり言うておきたいかなと思う。

あとは、今日何回か学校との連携っていうことでお話が出ていたと思うけど、うちの娘も小学校から宿題が来るというので、この前生活科の宿題で七夕の由来について、七夕にやること、その他七夕についてというのが送られてきて、お子さんが読めるようにひらがなで書いてくださいと書いてあって、あ、私の宿題なんだな、と。みんなどうやっているのかと思ったら「そんなのGoogleだよ」という友達が多くて。でもそういう時にもしかして、学年だよりとかにお子さんと一緒に図書館へ足を運んでみてはと書いたことが書いてあったら、足が向くお母さんたちもいるのかなと思って。私は娘に図書館に行ってみようかと言われて行って、ちょうどいい資料を、本当に子供向けの書くのも簡単なようなものを紹介していただいて、書くことができた。ちょっとのことだと思うけど、子ども伝いに家庭と図書館と、というのをつなげられるのはやはり学校の担任の先生たちなのかなと、その時に感じた。

あと除籍について、除籍の作業というのは素人が手伝えることってないのかなあと思って。忙しい中で、除籍も業務の中に位置づけていきたいと書いてあったが、それこそ中高生とか学生のバイトになったりとかボランティアだったりとか、人に頼んでみるのであれば、イベント以外でも図書館に足を運んでもらうきっかけになる。中学生や高校生になると、利用する家庭とそうでない家庭の差が拡大しているを書いてあるが、中学生高校生は行きたければ自分で行くんじゃないかと思う。自分の中で図書館に行きたい、とか図書館が身近になっているとかというふうになれば、また利用も変わってくるのかなとも思う。でも自分のことをふりかえてみても、中高生の時は部活で忙しかったので。この年代に働きかけるのは難しい部分もあるのではないかな。

あと利用者が増えるかどうかはわからないけど、登録者を増やすのであれば地道に小学校1年生になったら図書館カードを作ろう、みたいなそんな呼びかけとかをしていったらどうか。図書館にクラスで行ったときにじゃあ今度はお父さんお母さんと来てね、というのはどうかなあと思った。でも、来ていただいた方に満足して帰ってもらいたいという思いがあるという、そういう考え方も素敵だなと私は思う。

あと、英語の本の読み聞かせとかどうでしょうか。お父さんお母さんすごい英語熱高かったりするのです。

これからも楽しく図書館を利用させていただきたいと思います。またおはなし会とかが始まるのを楽しみにしています。ありがとうございます。

委員H

いつも思うが、図書館の方が本当に一生懸命市民サービスをということで活動しているのを来るたびに感じている。ついこないだ冊子を見ていたら、去年だったと思うが、障害者ボランティア法とかいうのが成立されたっていうのを読んだ。その中で、内容的には、細かいことは市町村の図書館に任せると、そういうのを読んで、ああ、これは図書館も大変だなあと思いながら。ボランティアをしている立場としましては、図書館の方向に沿わせて、ボランティアの立場で、これはやっぱり一生懸命協力していくことがこの法律に沿うことなんだろうなあなんて思ったんですが、またそういう連絡が来たら、よろしくお願いします。

委員I

私も図書館が、コロナ禍のときに、滞在30分と制限があっても、開いてくれたことはすごくありがたかった。休校中の子どもたちが、宿題や読書よりもYouTubeやテレビしか見えないのを見ると、私にしてみたら、もうちょっと違う時間の使い方もあったのになあっていうのを感じた。

それで今話をさせていただいていた中にひとつ気になったのが、はじめての絵本を渡しているというところで、子どもの検診のところの受診率が下がったというのを聞いて、びっくりした。

あともう一つ思ったのは、去年、これからの職業で消えてく職業の件の講座があって、確か最初は募集が30名とか人数が少なかったはずなのに50何名になってすぐいっぱいになった、っていう話があって。あれだけ好評だったんだったらもう一回、できるなら第2弾をやってほしいなっていうのを、たまたま後からチラシを見た人で、私のやっている仕事はどうなんだ、と言いながら、逆にすごく興味を持たれたという方がいたので、逆にそういう消えていく職業、あなたの仕事はどうなんですかって逆に聞かれたら、興味をもって、その講座だけでも出てこないかな。その人もその一言にびっくりした、消えていく職業って言われたときにびっくりしたっていうんだから、今の子どもたちの将来のことを考えたときに、親もちょっと考えてみようかなって興味を持ってくれるんじゃないかなっていうのは思った。

今子育てしている子どもたちに、親が、その親だからおばあちゃんが娘にしてやれたことは、小学校の間は図書館へ、何でもかんでも連れていけと週に1回くらいずつ連れてきたけれど、確かに中学生になってしまえば、親の都合で連れてくるわけにはいかないし子どもの都合が優先になってしまうから、自分が用がなければ図書館に行く可能性がなくなってしまう。そういう面でいったら、県とか上郷の子どもたちっていうのは意外と、通学路の途中や通るところに近く、わかるところに図書館があって日曜日でも土曜日もやってってくれるという意味では、すごくありがたい存在だし、こういう大きいところがあるのはうれしいんだけど、親が連れてくるにはちょっと駐車場が狭い。それで県の自治振興センターへ引っ越したら、駐車場がまたどうなるんだろうと。それとほんとに3階まで登ってきてくれるのかなあっていうのも

心配になるので、ぜひ引っ越したら、この上でやってます、という大きな看板を下げてください。お願いします。そうしないと絶対に行かないと思う。でも、そうすればセンターに来た人も、興味を持ってくれるかと思えますよ。お願いします。

会長 いろんなご意見から質問から出していただいたので、これを参考にさせていただいて、次のステップの方へお願いしたい。

事務局 素案に取り掛かる時期になるので、これ言っておけばよかったっていうようなことがあったり、これは図書館で大事にしてほしいということがあれば、またぜひお伝えいただきたい。

会長 このことについてはこれで終わりにさせていただきます。

(2) その他

会長 何か、委員の皆様からその他あればどうぞ。よろしいですか。では、協議事項はこれで閉じさせていただきます。